

## 宇ノ気中学校 部活動（運動・文化部）の活動方針

### 1 目 標

- (1) スポーツや文化等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感等の資質、能力を育成する。
- (2) 学校教育の一環として、教育課程との関連を図ると共に、生徒の全面的な成長を図る。
- (3) 県や市の方針を遵守し、安全かつ計画的に実施する。

### 2 部活動運営

- (1) 休養日及び活動時間について（原則及び通常練習の設定）

- ①活動時間は1年を通して午後6時00分を完全下校時間とする。
- ②部活動の休養日は、週3日（原則月・水・日曜日）とする。
- ③通常練習における1日の活動時間は、平日は2時間程度、学校の休業日は3時間程度とする。
- ④2週間以内に中体連等公式大会がある場合、月・水・日曜日の活動を認めることがある。
- ⑤朝練習は原則廃止するが、学校行事や施設利用の関係で活動を認める場合がある。
- ⑥その他
  - ア、完全下校時間を超える活動時間の延長は認めない。
  - イ、休養日の設定や1日の活動時間が原則を超える場合は、校長の許可を得ること。
  - ウ、定期テスト前の部活動停止期間を原則1週間とする。但し、2週間以内に公式大会のある部で、活動希望の場合は、学校長と保護者の了解を得て活動できるものとする。

- (2) 部活動への加入（新入生）

- ①4月中旬から下旬にかけて部活動を体験する期間を2週間程度設ける。この期間の完全下校時刻は午後5時45分とする。（週休日の活動は顧問の指示に従う）
- ②体験入部期間後に部活動発足式を行い、正式入部とする。
- ③特別な事情（病気・ケガ等）で所属部活動を変更したい場合は、協議の上、認める場合もある。

### 3 留意点等

- (1) 指導する際の留意点

- ①事故の防止、安全の確保に努めると共に、再発の防止に向けて対応策をとる。
- ②熱中症の防止については、「熱中症予防運動指針」等を参考に、実施について適切に判断する。  
表1に定める通り、暑さ指数（WBGT）が31以上（危険レベル）の場合、運動を原則中止とする。  
また、暑さ指数（WBGT）が28以上（警戒レベル）の場合、顧問がこまめな休息と水分補給を呼びかける。
- ③生徒の人格の尊厳を損ねたり、否定したりするような発言や行為は決して許されないことを十分理解し、体罰やハラスメントの根絶を徹底する。
- ④生徒と指導者、生徒同士のコミュニケーションを大切にされた良好な人間関係の充実に努める。
- ⑤生徒の発育、発達段階に応じた科学的トレーニングやスポーツ医科学的な側面からの多面的なアプローチの指導を取り入れる。

- (2) スポーツ環境の整備

- ①生涯にわたる豊かな文化・スポーツライフの基礎となるよう、施設環境はもとより外部の指導者や部活動指導員を活用し生徒のニーズに応えられるように努める。

(3) その他

①その他、国のガイドライン及び県、市の方針に則るものとする。

②設置の部活動については、学校管理運営計画に示すものとする。

表 1

WBGT	乾球温度		運動指針	宇ノ気中の部活動対応
35度以上		熱中症特別警戒アラート	校長や経営者、イベント主催者等の管理者は、全ての人が熱中症対策を徹底できているか確認し、徹底できていない場合は、運動、外出、イベント等の中止、延期、変更(リモートワークへの変更を含む。)等を判断してください。	前日14時に発令  発令時には部活動中止の連絡をコードモン等で行う
33度以上		熱中症警戒アラート	皆で、身近な場所での暑さ指数(WBGT)を確認し、涼しい環境以外では、運動等を中止しましょう(皆で熱中症対策を積極的に取りやすい環境づくりをしましょう。)！！	前日17時と当日5時に発令  発令時には部活動中止の連絡をコードモン等で行う
31度以上	35度以上	危険 (運動は原則中止)	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。	部活動(運動)はしない
28～31度	31～35度	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。  暑さに弱い人は運動を軽減または中止。	下記条件付きで運動可能  ① 顧問が必ず運動場所に付き添う ② 激しい運動・持久走禁止 ③ 10～20分おきに休息・水分補給
25～28度	28～31度	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。  激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。	部活動(運動)可  30分おきに休息・水分補給
21～25度	24～28度	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。  熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	部活動(運動)可  積極的に水分補給
21度未満	24度未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	部活動(運動)可